

I 教育目標

「明日を担う人をつくるために」

～社会の多様なニーズに対応し、生きて働く力をつける～

「にこにこ 元気に やりぬく子」

○にこにこ・・・人権尊重の精神の基、互いに支え合い、安心して楽しく、伸び伸びと過ごす。

○元気に・・・生きる力の基本となる心身の健康を保ち、主体的・積極的に活動する。

○やりぬく子・・・自分の課題をもち、多少の困難があっても、最後まであきらめずやり遂げる。

II 経営方針

目指す学校像

「こどもを育てる学校」から「子どもが育つ学校」へ「こどもまんなかの学校」
～こどもたちも教職員も保護者も地域もみんなが笑顔になる、みんな輝くウェルビー
イングな学校～

- こどもたちが主体的に学び活動する学校
- 保護者・地域とともに創る開かれた学校
- 教職員が協働して教育活動を創造していく学校
- 児童・保護者・地域がともに学ぶ安心・安全な学校

目指す児童像

- 自ら学び、自ら考え、主体的に行動するこども
- 自他を大切にし、互いに認め合い支え合うこども
- 心身ともにたくましいこども

目指す教師像

- 教育公務員としての職責を理解し、誇りと使命感をもった元気な教師
- 毎時間の授業を大切に、「個別最適な学び」や「協働的な学び」の実践・工夫ができる教師
- 協調性を持ち、自らの課題を認識し日々研鑽に努めるとともに、真摯に学び、学びを楽しむ教師
- 学校や地域を愛し、地域や保護者と共感し、積極的に対話しながら、こどもや保護者に寄り添う教師
- 同僚と高め合い、互いに励まし合う教師

経営理念

《経営理念》

人権尊重の精神を基盤とし、知・徳・体のバランスのとれた人間性豊かな明日を担う人をつくる。

一人一人の児童が、それぞれ互いの多様な個性を尊重し、自らの資質、能力、興味、関心に応じて自ら学ぶと共に、互いに認め合い支え合いながら学んでいける学校を目指す。

- 自分の考えをもち、表現する子を目指し「正解をいかにわかりやすく教えるか」ではなく、「こどもとともに学ぶ授業」を展開する。
- ICTを活用した授業を推進し、個別最適な学びと協働的な学びの充実を図る。
- 自他を大切にする、互いに認め合い支え合う子を目指し、自己肯定感を高める心の充実を図る。
- 道徳教育の充実を図り、異なったものを排除せず、共存するための柔軟な対応力や他者との違いを対等な違いとしてつながることを学び合う。
- 本校の特色ある教育である、縦割り班活動、幼少連携教育、動物飼育、金管バンドといった取組をとおして、さまざまな人とつながり、協働する活動（合意形成）の充実を図る。
- 体力・運動能力、生活運動習慣等調査の結果から自分の的確な目標をもち、意欲的にその向上を目指す児童を育成する。
- 困難に負けず、ねばり強くやり遂げ、チャレンジする子を目指し、失敗してもやり直しができる環境作りをする。

Ⅲ 経営目標

重点領域 1		学力の向上
中期経営目標	学習指導要領の内容、知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性等の3つ全てを身に付け、主体的に学び続ける力を育む。	
短期経営目標	○児童が主体的に学習し、対話をととして身に付けるべき力をより深く確実に身に付けられるよう、主体性を引き出し、対話を生み出す授業を展開できるようにする。 ○全国学力・学習状況調査、児童・生徒の学力向上を図るための調査、こうとう学びスタンダード定着度調査の結果を分析し、課題を明らかにし、指導の工夫・改善を行う。 ○一人一人の児童の実態に応じた指導を行うとともに、基礎・基本を確実に定着させて、児童の自信と学習満足度を向上させる。	
項目	努力指標（教師側）	成果指標（こども側）
1	「こうとう学びスタンダード」学び方スタンダードを80%以上の児童に定着させ、それぞれの内容の意図や意義を伝えられる教師を90%以上にする。	「こうとう学びスタンダード」学び方スタンダード定着度調査8項目で「よくできる」と回答する児童が80%以上
2	国語・算数・英語スタンダード定着度調査の結果を基に、重点目標を設定し、授業改善に積極的に取り組む教師を90%以上にする。	スタンダード定着度調査、全国学力状況調査（6年）、都学習状況調査（5年）の結果をもとにした各学年の目標達成率80%以上
3	毎時間の学習を工夫し、児童が主体的に学んだり、話し合ったりして児童の学習の満足感を高めることができる教員を90%以上にする。	「進んで学習することができた」「学習が楽しい」と回答する児童を80%以上
4	個別最適な学びと協働的な学びの実現のため、ICT機器の積極的な活用を図る。	ICT機器の操作に慣れ、ICTを使った学習に意欲的に取り組む児童を90%以上にする。
5	Challenge Wednesdayを活用し、児童が主体的に学ぶ習慣を身に付けることができるよう働きかける。	Challenge Wednesdayに意欲的に取り組んだ児童を90%以上にする。

重点領域 2		豊かな心の育成
中期経営目標	○互いの違いを個性（よさ）として受容し、尊重することができるようにする。 ○自他の大切さに気づき、認めることができるようにする。	
短期経営目標	○「自他の良さに気付く」「違いを認め合う」「自己有用感をもつ」をキーワードに、全教科領域を通し、実践を行う。 ○明るく元気な挨拶ができるようにする。 ○生命を尊重する心を育む。	
項目	努力指標（教師側）	成果指標（こども側）
1	自他を大切にする、互いに認め合い支え合う子を目指し、自己肯定感を高める心の教育の充実を図る。	「自分によいところがある」と回答する児童が85%を超えるようにする。
2	年間を通して「あいさつリーダー運動」を行う。教師自身が明るく元気で気持ちのいい挨拶をする。	「保護者アンケートで「すすんで挨拶ができ、落ち着いて話ができる」という質問項目の「そう思う」という回答が50%を超えるようにする。
3	問題行動の早期発見、早期対応、早期解決に組織的に全職員で取り組む。児童がいじめ防止に主体的に取り組めるよう、児童会活動などでのテーマにする。	全員が学校が楽しいと答えられるように、いじめ、不登校0になるようにする。

4	スマイルチーム（縦割り班）活動や辰巳幼稚園との幼稚園交流を計画に基づいて実施する。	「協力し合えた」「お世話をしてよかった」と回答する児童が90%を超えるようにする。
5	学校飼育動物（ウサギ）や各学級で飼育している動植物を大切にし、生命尊重の心を育めるよう、各教科・領域における関連活動で、動植物の世話を責任をもって行えるようにする。	「ウサギを大切に思う」「動植物の世話をしっかり行っている」という児童が80%以上になるようにする。

重点領域3		体力の向上
中期経営目標	生活・運動習慣、体力・運動能力等調査の結果から、実態把握と評価・分析に基づく授業改善を行い、生活・運動習慣、体力・運動能力の向上に努める	
短期経営目標	○自己の健康に関心をもたせるとともに、学年・学級ごと、個人ごとに体力・運動能力目標を設定し、積極的にチャレンジさせる。 ○運動することの楽しさを味わい、すすんで運動しようとする。	
項目	努力指標（教師側）	成果指標（こども側）
1	外で元気に遊ぶ児童を育てるため、中休みに週に1回以上、児童とともに外遊びをする。	「毎日外遊びをした」と回答する児童が85%以上になるようにする。
2	「こうとう学びスタンダード」体カスタンダードの内容にそった、自分の目標が立てられる児童を85%以上にするるとともに、自分の目標が達成できた児童を80%以上にする。	「こうとう学びスタンダード」体カスタンダードの内容にそった、自分の目標を立て、その達成に向けて努力する児童が80%以上になるようにする。
3	体力・運動能力調査の結果を踏まえて各学年の重点取組課題を決め、体育の時間等で取り組み、体力・運動能力調査の5%向上を目指す。「大縄週間・ながチャレ」「ジョギング週間・記録会」を行い、運動の楽しさを味わえるようにする。	自分の課題をもち、日常的にその向上を目指す児童が80%以上になるようにする。 楽しく運動に取り組んだ児童が80%になるようにする。
4	日々の生活習慣のリズムを健全な状態に整えるように、折に触れ言葉をかけ指導していく。生活習慣アンケート等、家庭と連携を図り、「早寝・早起き・朝ご飯」等の習慣の定着を図る。	年間2回の生活習慣アンケートで「早寝・早起き・朝ご飯」が定着した児童が100%になるようにする。

重点領域4		保護者・地域との連携
中期経営目標	地域社会の一員として、地域を愛し、郷土への誇りと豊かな国際感覚をもち、明日を担う人をつくるために保護者・地域と連携を図る。	
短期経営目標	○地域の教育資源や地域人材・保護者ボランティアを取り入れた特色ある教育活動を推進し、地域を愛する心を育て、地域・保護者からの信頼を得る。 ○保護者・地域と連携し、教育活動への理解や協力を図り、児童の健全育成を進める。	
項目	努力指標（教師側）	成果指標（こども側）
1	ホームページの更新や学校便り、学年便り、保護者会や個人面談等を活用し、教育活動を公開することで、保護者・地域の学校への理解や信頼を高める。	保護者アンケートで「教育活動はわかりやすい」という回答が90%を超えるようにする。 保護者アンケートや学校評議員による評価で「保護者・地域との連携」において「満足・ほぼ満足」という回答が80%を超えるようにする
2	江東区の重点でもある「保幼小中連携事業」の一環である「幼稚園交流」「三校連絡会」に積極的に関わり、各校種の課題を知り、自校の指導に活かす。	保護者アンケートで「地域と協力して教育に当たっている」と85%以上が回答するようにする。
3	教員・スクールカウンセラーによる全員面談を行う。 スクールソーシャルワーカーと連携を図り、安心して過ごせる学校を目指す。	保護者アンケートの「学校には、児童が願いや悩みを話せる場があると思いますか」という質問項目で「そう思う」という回答が80%を超えるようにする。